

こんにちは婦人会「さくら」です

3月も後半となりました。先日、知人に「お花見に来ませんか」と声をかけられましたのでお邪魔してきました。綺麗に手入れをされた花壇のあちこちには、春の訪れとともに匂を迎えた花たちが、自ら主役とばかりに蕾を開かせ咲き誇る花たちの晴れ舞台のようでした。おいしいご馳走もいただき、のどかな春のひと時でした。ごちそうさまでした。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

「春のお届け」とフキノトウをいただきました。



例のごとく調べてみました。フキノトウは、雪解け

を待たずに顔を出す春の使者で、一番早く出てくる山菜です。独特の香りとほろ苦さが春の息吹を感じます。『春の皿には苦味を盛れ』といわれます。実はこの苦味こそ、冬から春の体が変わるメカニズムをスムーズにする働きがあるのだそうです。なんと冬眠から目覚めた熊は、最初にフキノトウを食べるそうです。日本原産で縄文時代から食されており、平安時代には栽培が行われていたようです。実は、フキノトウには雄花と雌花があるのです。「雄花は黄白色の花」「雌花はふっくらで丸みがあり白い花が咲きます」。天ぷら、味噌汁、フキノトウ味噌などで、匂の恵みをいただいてみませんか。 (インターネット引用)

春寒のおり、くれぐれもご自愛ください。



婦人会「さくら」
平成27年3月23日
第158号